

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

平成29年7月24日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28-004

名称 里地里山保全ねっと

所在地 印西市美瀬

代表者職氏名 高橋 幸治 ⑩

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	<p>印西市には豊かな里山環境が多く残っているが、農家の高齢化や後継者不足、また生活様式の変化により耕作放棄地が増加し、里山の荒廃が進んでいる。この里山環境の悪化からイノシシが住みやすい環境となり、獣害の発生元となっている。このまま放置すればイノシシはさらに増え、農作物の被害の増加だけでなく、住宅地への出没も頻繁になり、住民が怪我をするような事態も想像される。</p> <p>さらに、里山の所有関係は複雑化し、境界もあいまいで、手入れの相談をしたくても所有者との連絡が困難な場合もある。</p>
提案理由	<p>イノシシ対策として「捕獲駆除」「防護柵」「生息環境の管理」を同時に実施することが効果的と言われている。印西市で行っている捕獲駆除と電気柵等の防護対策に加え、市民や所有者が共同で生息環境の管理を実施したい。荒れた里山や耕作放棄地の整備保全活動を進め、イノシシが生息しづらい環境の整備を進めていく。そして、市民が里山に親しみ、印西市の自然環境を満喫できるような里山づくりを行いたい。</p>
提案内容 (予算の概算も記入)	<p>いには野の美瀬地区の東側谷津田周辺にはイノシシが多く生息している。数年前からイノシシは生息していたが水田が境界線となっていた。しかし、ここ数年でほとんどが耕作放棄地となり大人の背丈より高い草が生い茂り荒れ放題となっている。また、谷を挟んで美瀬と反対側の森と竹林は放置され典型的な荒れた里山となりイノシシの絶好の棲家になっている。</p> <p>このような荒廃の進んだ土地で整備が必要な区域を瀬戸・吉高地区からリストアップし、所有者と調整をしながら順次整備を行っていく。</p> <p>活動予定としては、対象区域の範囲にもよるが、会員による整備活動は月</p>

	<p>4回、月の延人数20人程度を想定する。また、一般ボランティアを募集し体験型の整備活動も年2回程度行う予定である。</p> <p>必要経費は、環境整備用の刈払機やチェーンソーの機材関係費用、刈草や伐採竹の搬出処理費用、整備事業参加者の保険費用等であるが、事業の詳細を協議後調整させて頂きたい。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<p>私たちは、いには野地区の住民を中心とした団体で、昨年から角田地区で竹林の整備に取り組んでいる。森林組合や林業の事業体、市内外の環境系団体で活動実績を持つメンバーもあり、今後は活動の規模と幅を拡大しようとしている団体である。</p> <p>地域住民が中心となって里山整備によるイノシシ対策を実施することにより、住民の環境意識の向上が期待できる。また対象農地・竹林の近隣の住民団体が実働することにより、市としては直接実施することが難しい個人所有地等の草刈りや竹林整備等の環境施策が行いやすくなると考えている。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>里山が整備されることで、イノシシが棲みづらい里地里山環境が作られ、イノシシの増加を防ぐことができる。それに伴いイノシシによる農作物への被害や住民とイノシシの遭遇機会を減らすことができると考えている</p> <p>またイノシシが棲みづらい里地里山環境は里山の景観改善にも繋がる。</p> <p>今後は市民に里山への親しみを持ってもらえるよう散策コースの整備や里山学校のような環境教育も行っていきたい。</p> <p>更に里山整備の際に出る材の有効活用方法についても検討していきたい。</p>